

授業概要

江戸後期の漢学者・頼山陽によって記された『日本外史』は源平から徳川氏までの歴史を漢文体で記述された歴史書であり、幕末期においても広く愛読されてきた。漢文と言っても日本の有名な戦国武将も多く登場するため、受講者にとって親しみやすい教材である。本講座では高校の教科書の復習から入り、最終的には漢文訓読に必要な技能を確認しつつ明治期の教本を読む。さらにその後、頼山陽の孫弟子にあたる西川文仲が詠じた『日本外史楽府』の該当箇所を併せ読むことで漢文と漢詩の違いについて講義する。

授業計画

第 1 回	ガイダンスー『日本外史』と『日本外史楽府』についてー
第 2 回	閉塩ー上杉謙信ー（教科書「所争在弓箭」）
第 3 回	白布裏面ー上杉謙信ー（教科書「信玄何在」・「題不識庵撃機山凶」）
第 4 回	「一矢断扇轂」ー那須宗高ー（教科書「那須宗高」）
第 5 回	池月磨墨ー佐々木高綱ー（教科書「宇治川の先登」）
第 6 回	東国男子ー平知盛ー（教科書「壇ノ浦」）
第 7 回	讒人ー梶原景時ー
第 8 回	七生殺賊ー楠木正成・正季ー
第 9 回	鼠齧杉根ー北条早雲ー
第 10 回	鹿角膏ー本多忠勝ー
第 11 回	蝶兄鏡弟ー大久保忠世・忠佐ー
第 12 回	四無応援ー烏井元忠ー
第 13 回	土兵刺肋ー明智光秀ー
第 14 回	国家安康ー徳川家康ー
第 15 回	凹処布陣ー真田幸村ー
第 16 回	学期末試験

到達目標

- ・明治期の漢籍に触れ、その内容を理解できる。
- ・漢文（散文）と漢詩（韻文）の違いを理解できる。
- ・楽府と近体詩（絶句・律詩など）の形式の違いを理解できる。

履修上の注意

授業は毎回配布するプリントを中心に行うため、授業中のメモや記述が必要となる。授業中にフォームによる出欠確認とオンラインによるリアクションペーパーを行う。

予習・復習

配布資料をもとに講義するので講義内容を必ずメモに取り、筆記試験に備えて整理保存しておくこと。

評価方法

学期末試験 70%、受講態度やリアクションコメントの内容 30%

テキスト

- ・教科書名：
- ・著者名：
- ・出版社名：
- ・出版年（ISBN）：